

H 2 7 . 3 . 2 0 (金) 1 2 : 5 0 ~ 賞状伝達式後

平成 2 6 年度 終業式

○ 東日本大震災から 4 年が経過。

- ・ 福島の、日本の復興を担っていくのは間違いなく君たち。
- ・ 一度で良いから浜通りの現状を自分の目で見てきてほしい。
 - ← 映像だけでその空間全体の雰囲気を感じ取ることは困難
- ・ 私は、震災後、仕事で何度も足を運ぶ機会があった。
 - 常磐線・・・いわき～竜田（檜葉町）、原ノ町～相馬のみ運行
 - 国道 6 号線と常磐道は 3 月から通行可能に
 - 3 月に入って、妻と一緒に訪れた。（妻「自分の目で確かめたい」）
 - 郡山～福島～相馬～いわき（走行距離 3 2 0 km）
 - 新地、相馬、南相馬（鹿島・原町・小高）、浪江、
 - 双葉、大熊、富岡、檜葉、広野、いわき（新地～いわき中央 1 0 0 km）
 - （松川浦・・・復興進む活気、食堂（P A は県外ナンバーばかり）
 - 小高・浪江、富岡・・・元々干拓地で、海水をかぶったままの水田、
 - ゴーストタウン）
- ・ ▲君たちには足がない、車で連れてってもらえないが・・・
- 少なくとも、ネット検索（ex. 小高町、水田、水没、大震災）で画像を見て。

○ 「考えること」の重要性について

パスカルの言葉を手がかりに話したい。

ブлез・パスカル(1623-1662)・・・17世紀フランスの数学者、物理学者、

③家光～⑤家綱 宗教哲学者（思想家、キリスト教神学者）

△ パスカルの定理・・・パスカルが16歳のときに発見した（円錐曲線に関する定理）
円に内接する六角形の対辺の延長線の交点は一直線上にある。

△ パスカルの原理・・・密閉容器中の流体は、その容器の形に関係なく、ある一点に受けた単位面積当りの圧力をそのままの強さで、流体の他のすべての部分に伝える。」という流体静力学における基本原理。この考えを用いて、油圧ジャッキや油圧ブレーキ（自動車のブレーキの一種。ブレーキペダルを踏む力を増幅して車輪の回転を止める。）などの力を増幅する装置が得られる。

△ ヘクトパスカル【hectopascal】・・・圧力の単位。「hPa」。1hPa は1パスカルの100倍。1ミリバールに等しい。主に気圧の表示に用いられ、日本ではミリバールに代わり、1992年（平成4）12月に導入された。

1 気圧（標準大気圧）(atm) = 1 0 1 3 . 2 5 mbar = 1013.25 hPa

さて、パスカルの言葉。パンセ（瞑想録）の中にある、次の言葉が有名。
（偶然だが、卒業式に配られた「安高PTAだより」に3年担任の江間先生も書いているので、後で読んでほしい。）（3年倫理・政経）

人間は、自然のうちで最も弱い一本の葦にすぎない。
しかしそれは考える葦である。

＜津田 ^{ゆたか} 穰 訳 パスカルの「パンセ（瞑想録）」新潮文庫＞
[第六類 思考の尊厳] 3 4 7 ・ 3 4 8

L'homme n'est qu'un roseau, le plus faible de la nature ;
mais c'est un roseau pensant.

Man is no more than a reed, the weakest in nature. But he is a thinking reed. "
(Man is but a reed,)

人間は、自然のうちで最も弱い一本の葦にすぎない。
しかしそれは考える葦である。

これをおしつぶすのに宇宙全体が武装する必要はない、一つの蒸気(*)、
一つの水滴もこれを殺すのに十分である。

しかし宇宙がこれをおしつぶすとしても、そのとき人間は、人間を殺すこのものよりも、崇高であろう、なぜなら人間は、自分の死ぬことを、それから宇宙の自分よりずっとたちまざっていることを知っているからである。宇宙は何も知らない。

だから我々のあらゆる尊厳は考えるということにある。我々が立ち上がらなければならないのはそこからであって、我々の満たすことのできない空間や時間からではない。だからよく考えることを努めよう。ここに道德の原理がある。

(347)

空間によって宇宙は、私を一点であるかのように包み吞む。
思惟によって私は宇宙を包容する。 (348)

弥勒菩薩半跏^{しゆい}思惟像、中でも、京都市太秦の広隆寺靈宝殿に安置されている「宝冠弥勒」は、
右手の薬指を頬にあてて物思いにふける姿で知られる。<130周年北校舎東端の像>

蒸気(*)…古人は、下腹から上昇する蒸気がありこれが脳神経を犯すと考えていた。

この語は17世紀においてはその意味に使われている。

パスカルの言葉は、大宇宙の中で孤独で無力な人間が、宇宙における自分の悲惨な存在について考えるとところに偉大さがある、との解釈。

それでは君たちは、「考える」ということをどう捉えているだろうか。「自分自身の頭で、色々なことを考えている」と君たちは言うだろうか。確かに、毎日の学習の中でも、たくさんの未知の言葉に出会い、それらを自分の中に取り込みながら、「何故日本文化は、ササラ型ではなく蛸壺型なのか」(丸山真男「日本の思想」)とか、「数学のある証明問題について、もっとシンプルな証明はできないのか」とか、様々なことを考えて過ごしているはず。

しかしそれは、与えられた教材や練習問題があつて、それに基づいて考えているということだろう。それはそれで重要なことであるし、安高生の受験に必要な、そして大学で研究を続け、社会人として生きていく上で必要な読解力・思考力は、日々レベルアップさせる必要があることは間違いない。

先程、「宇宙における自分の悲惨な存在について考える」と言ったが、教材をベースに考えることと併せて、自分の存在そのものについて、人間そのものについて、自分自身と他者の関わりについて、しっかりと考えることが大事だと思う。おそらく、クラス担任の先生や教科担任の先生からもそのように言われているのではないか。

もう少し、具体的な話をしよう。1年生は、一昨日3/18にOB・OG10名を迎えて「学部・学科探求」の時間があつたはず。

既に、目指す学部・学科が固まり、それを見据えて勉強している人、学部までは固まったが、学科までは決まっていない人、学部そのものの選択にもまだ迷いがある人、或いは、学部は決まっていますが将来の職業はまだという人など様々だろう。そこをしっかりと固めるための「学部・学科探求」の時間なので、先輩の話も手がかりにしながら早く固めてほしい。

よく「遠い目標からの逆算」ということが言われる（以前、進路の亀岡先生からも）。自分の将来の職業という遠い目標が固まれば、その実現のための近い目標としての大学・学部・学科が見えてくるし、そのための今年の目標、更に今月、そして今日の今この瞬間の目標、というように未来から現在への道のりが見えてくれば、後は、現在から未来へ一歩一歩着実に歩みを進めるだけ。

「自分の将来の職業という遠い目標」を固めるために何が必要か、皆さんは既に理解していると思う。将来の自分自身のイメージを鮮明にするためには、自分を徹底的に見つめる必要がある。自分は何が好きなのか、自分は両親から（祖父・祖母から）何を受け継いだのか、家族は自分に何を期待しているのか、或いは期待していないのか、ふくしまのために・日本のために自分ができることはあるのか、自分は周りの人とどのような関わり方をする人間なのか・・・。

こうして、自分自身をしっかりと見つめて、遠い目標が固まり、現在から未来へ歩み出した人は、当然のことながら「自主自律」の精神を体現した人になるはず。自ら考え自らが主となって自らを律することができる、それが安積の生徒だと思う。

○ 「震災後高校第2期生」128期生、3／23迄後期日程の発表有り。

思うような結果が出なかった大学もあるが、東大3（現役2）、京大6（現役3）、東北大36（現役28、これは8クラスになってからの過去5年間で最高の数字）、19、21、19、27（124期）、26、22

早大24、慶応11、東京理科大27、明治大34、よく頑張ったと思う。
128期の担任の先生たちからは、「数学が鍵」。

129期、130期の君たちもこれに続いてほしい。
と言うより、128期の先輩を超えるつもりで、この春休みから取り組んで。

しっかり自分自身を見つめて、今以上に、自ら考え自らが主となって自らを律することができる人間になり、凛々しい安高生の顔を始業式で見ることを期待して、私の話を終わる。